

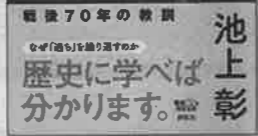
世界から戦争がなくなる本当の理由

池上 彰 著
戦後70年の今こそ学びたい
歴史を通じた真実と未来の姿

著者は冒頭で、原爆死没者慰霊碑の碑文「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」には主語がなく、先の戦争をしっかりと総括していない象徴にほかならないと指摘する。折しも戦後70年を迎え、戦争体験を直接聞く機会も失われつつある。忘却のかなたに去りがちな「戦争」という悲劇から目をそらさず、二度と戦争を起こさないためにはどうすべきか。著者はその課題に真正面から向きあい、ジャーナリストの視点でずばり直言する。

日本は本当に平和なのか、アメリカはなぜ同じ過ちをくり返すのか、終わることのない宗教対立、そしてマスコミが戦争のプロパガンダ機関となるときのなど、著者の問題提起は「戦争が戦争を生

世界から戦争がなくなる本当の理由



定価(本体1400円+税) / 祥伝社
☎03-3265-2081

んでしまう悪循環を断ち切るには、どうしたらいいのか」という一点にあると言ってもよい。著者は私たち一人ひとりがまずは過去としっかり向きあうことの大切さを説く。歴史をひもときれば、人間の愚かさを痛感するとともに現在と未来の国際情報も見えてくる。本書は物事の本質について深く考えさせるだけに、今こそ多くの人に読んでほしい好著である。

身近な人が亡くなった後の 手続きのすべて

児島明日美、福田真弓、酒井明日子 著
一家に一冊備えておきたい
もしものときの身近な参考書

葬儀・法要にはじまって、保険や年金、相続の手続きと相続税、預貯金の名義変更など、身近な人が亡くなると、いや応なく行わなければならないことが押し寄せてくる。悲しみに包まれるなかで最低限、しかもすみやかに要求される手続き・届け出もある。本書を執筆したのは、こうした手続きや届け出に実際に関わってきた税理士、司法書士、社会保険労務士。それぞれの経験を踏まえ、一連の流れを分かりやすく説明する。何よりも期限に間に合うように、かつ二度手間にならないよう、ポイントを押さえている点が特徴だ。

まず巻頭ページは、一般的な流れに始まり、チェックリスト、素朴な疑問などを掲載し、ひと目で全体がイメージでき

身近な人が亡くなった後の
手続きのすべて



定価(本体1400円+税) / 自由国民社
☎03-6233-0781

る構成だ。そして、第1章は死亡診断書、死亡届、葬儀・納骨の手配など、死亡直後の手続きを解説。第2章では、少し落ち着いてからでも間に合う届け出や手続きを扱い、さらに第3章以降は遺族年金などの年金、遺産相続手続きの基本、相続・名義変更の手続きなど、順を追って理解が深まるようにまとめている。本書をいざというときにために常備しておきたい。

日本建国の原点

この国に誇りと自信を

大川隆法 著
「日本の素晴らしさ」を再発見し
いまこそ自虐史観に終止符を

著者の1900書突破記念と銘打った本書は、戦後70年の節目にふさわしく、日本の成り立ちに焦点を当てている。

神話はフィクション、天照大神も聖徳太子も架空の人物とする歴史観に



読む。知る。 楽しさ広がる。

BOOK

ブック・アサヒ・コムでも掲載します ※今月号は8月27日(木)掲載予定です。

ブックフェアガイド

- (WOWOWコラボ企画)「深海の世界を知る」フェア
旭屋書店 池袋店(9月30日まで)
- 「歴史から現在を見る 現在から歴史を読む」連続フェア 第3回戦争と平和の境界
丸善 丸の内本店3階人文ミニフェアコーナー(8月30日まで)
- 映画パンフレット&ポスターフェア
三省堂書店 神保町本店8階特設会場(8月26日まで 10時~20時 ※最終日は15時まで)
- 憧れの北極と南極ブックフェア
ジュンク堂書店 池袋本店7階(9月19日 16時まで)

その“医者のかかり方”は損です

長尾和宏 著
「損な患者さん」にならないための
医師と病院の活用法を解説

現役の医師でもある著者は、「損な患者さん」になってほしくないの本書を執筆したという。そこには、「患者さんの常識は、医者には非常識」「患者さんの思いと医者の思いは、こんなにも違う」という診療の現場を通じた実感がある。たとえば、症状を訴えるときに「こめかみがジンジン痛くて」と言うか、あるいは「偏頭痛持ち」と言うか、著者によれば後者は損をしている。さらには患者の医者への気づかいや配慮が空回りし、勉強熱心な点が逆効果になるなど、豊富な事例と共にその理由が丁寧に述べられる。

読み進むうちに私たちが随分と病院選びや名医の選び方で誤解をしていることが分かる。診察室で好かれる人、



定価(本体1100円+税) / 青春出版社
☎03-3203-5121

診察の後にトクする人、そして「かしこい患者さんになる12か条」などは通院・入院を予定している人には必読の知識だろう。また、決して在宅医療が高額ということはないし、「おひとりさま」の在宅医療も無理ではないという言葉にほっとする読者も多いと思われる。著者は、「お金では幸せな最期は買えない」ともいう。本書を通じ、ぜひ賢い患者として治療にのぞみたい。

作家の読書道

仁木英之さん
■プロフィール/にき ひでゆき 1973年大阪府生まれ。2006年、「僕僕先生」で日本ファンタジーノベル大賞を受賞しデビュー。同シリーズのほか、「千里伝」シリーズ、「まぼろしの王たち」「ちょうかい 未犯調査室」など多数。8月下旬に「恋せよ魂魂僕僕先生」を刊行予定。



「日本昔ばなし」以降、お好きだったものは、小学校2、3年生の頃に父が読んでいた吉川英治の「三國志」にハマったんです。そこから吉川英治の「新・水滸伝」「宮本武蔵」「私本太平記」あたりを読んで、それから山岡荘八にハマって「徳川家康」などを読んで。「長い小説は正義だ」みたいな感じになりました(笑)。中高の6年間はアニメオタクになって、ほとんど本を読みませんでした。

「2年間経って、帰国した後はどうされたのですか。就職したものの、ほどなく持ちかけられた独立話が頓挫して、丸1年間フリーターをしました。その間に本をよく読みました。トム・克蘭シーとか、フレデリック・フォーサイス。冒険小説でした。自分のいる状況がつかつたので、田中芳樹の「銀河英雄伝説」を読み始めたのもその頃だと思います。

さらに詳しい内容は WEB本の雑誌 <http://www.webdoku.jp/> でご覧いただけます。

老いも死も、初めてだから面白い

下重暁子 著
仕事や旅、老いや死までも
軽やかに語る人生論

著者は33歳でNHKを辞め、民放のキャスターとなったが、決して順風満帆ではなく、10年来の恋も失ったと振り返る。その後、3週続けて交通事故に遭い、3年続けて骨折するなど不運が続



黄塵の彼方

三浦由太 著
騒乱の時代、旧満州を駆け抜けた
男の壮大な物語

日清戦争から第2次世界大戦終結までの中国を舞台に、波乱の生涯を送った男を描いた小説である。昭和20年、日本軍の全部隊が武装解除された途端、北京は百鬼夜行の町と化した。戦中、華

